

## 彙 報

### 本会記事

設立総会 31年6月7日、楽友会館に志を同じくする者8名が集まり、会則の批准、会長、副会長、幹事の人選を行った。

会の名称は「西アジア研究会」とする事に決め、毎月1回研究会をもつ事を申し合わせた。

顧問会議 32年2月2日、イラン旅行計画を検討。中近東調査研究部と合併西南アジア研究会と改称する事を決定。会長は、足利現会長がそのまま留任。

顧問会議 6月8日、イラン学術調査隊派遣計画の最終的検討のため。

総 会 7月2日、人文科学研究所会議室。

足利会長より開会の挨拶、高林幹事より会務報告、小野田幹事より会計報告あり、ついで会長、幹事の人選に入り、会長に足利教授（留任）、副会長に宮崎教授（留任）、幹事に（庶務）高林、（会計）永元、（研究）大脇、清水、岡崎を互選。

その後、会の運営方針について、討議した結果、会報を発行する事を決定した。

幹事会 7月30日

総会において、決定された会報発行に関し、打合せを行った。そして、年三回発行、一回20頁位とし、タイプ印書とする事にきめた。尚、之に要する費用は、会費に求むとし、今年年額100円であつたのを顧問500円、会員300円とする事にした。

### 購入図書

#### イラン協会資料

- 18、ペルシアの回教世界
- 19、イラン国民法
- 20、ペルシア諺集
- 21、アゼルバイジャンの戦斗
- 22、イランにおける回教
- 23、イラン文化の一端を語る
- 24、イラン石油史

#### 輯外資料

イラン計画庁経済開発七年計画表

イラン重要日誌

インドイラン評論 6号、1957

Field, Henry. Bibliography on Southwestern Asia. I, II. university of miami Press.

(尚、以上図書は東洋史研究室に保管しています)

### 定例研究会

- 6月例会、6月14日 楽友会館  
「考古学より見たる沙漠とオアシス」 岡崎 敬  
6月21日 楽友会館  
「生態学より見たる世界構造論」 梅棹忠夫  
9月例会、9月19日 進々堂  
「西アジア学習の意義について」 足利惇氏  
10月例会、10月13日 史学科第二教室  
「アラビアの地図について」 高橋 正  
Farouhy氏歓迎会、11月11日 高林宅  
12月例会、12月15日 史学科第二教室  
「アシヨカ碑文研究史の回顧と展望」 東谷俊之  
1月例会、1月26日 史学科第二教室  
「アッバス朝下における駅通路について」 岡崎正幸  
2月例会、2月9日 史学科第二教室  
「フールスの遊牧地区について」 清水 誠  
4月例会、4月27日 進々堂  
「西方文化の東漸について」 高林藤樹  
6月例会、6月22日 史学科第二教室  
「メソポタミア平原の形成について」 大脇保彦

### 会員消息

- ◎井本英一氏は、イラン国テヘラン大学に留学のため、31年11月17日京都駅を出発、21日エール・フランス機にて、テヘランに向われた。
- ◎吉田光邦、東滋、高谷好一の三氏は中近東調査研究部の派遣せる京大イラン学術調査隊員として、イラン各地を歴訪しておられたが、多大の成果を収めて、31年11月17日帰路された。
- ◎加藤一朗、田中琢、高林藤樹の三氏は、本会の派遣せる、イラン学術調査隊員として、イラン

国シーラーズを中心に、主にバザールの調査をなすため、32年7月19日、多数の見送りをあとに京都をはなれ、同21日出光興産タンカー、日章丸にて徳山を出港、アラビア経由イランに向われた。そして、約40日間にわたる調査旅行の末、10月20日多大の成果を収め、帰国された。

## 編 集 後 記

◎ 西南アジア研究創刊号を、おとどけ致します。昨年6月に初戸をあげた私達の研究会も、一年間搖籃期にふさわしく、地道な活動をつづけて参りましたが、今では40名のメンバーを有する会に発展し、本7月には、かねて計画中のイランへの学術調査も、その実現を見るに到りました。

これを潮に、私達の小研究誌を発行しようという機運が熟し、ここに、この小冊子が、公になつた様な次第であります。

◎ さて、本号は足利会長より、創刊のお言葉をいただき、又、岡崎教授からは“西アジア文化の古さ”と題し、西アジア古代史研究に一つの示唆を与えられ、中原教授は、セイス教授が、本邦の西アジア学に対してつくされた業績を御披歴下さいました。更に、日本における数少いシュメール語研究者として活躍しておられる吉川守氏の力作、それに加うるに、アラビア語文献を自由に駆使した清水氏の労作、大脇氏の書評など、本会誌の創刊号を飾るにふさわしいものばかりであり、又、私達の研究会の性格を示すに恰好の創刊号となりえたものと思ひます。

◎ 尚、オ2号は2月に発行し、イラン調査隊のレポートとし、オ3号より、再び、この様な体裁にもどしたいと思ひます。発行は6月、原稿〆切は4月末であります故、会員諸氏の多数の御投稿をお待ちしております。論文は、400字詰30枚、書評は10枚を限度といたします。

◎ この様な編集方針に対し、色々な御意見もありましよう。どうぞ、編集子迄お知らせ下さい。尚、茲は、大脇、清水、岡崎が編集にたずさわつております。編集者の不馴れの故、かくもおくれてしまいました。お許し下さいませ。

( 岡 崎 )